

単独クラッシュを喫するも 24時間を走り抜き完走



Team Noah「マッハ車検 GR Supra GT4 EVO2」は、6月5～7日に富士スピードウェイ(静岡県)で開催されたENEOS スーパー耐久シリーズ 2026 第3戦「富士 24時間レース」に6名のドライバーで参戦。上位進出を狙い走行を続けていた明け方に単独クラッシュを喫し修復に50分を要すことになったが、無事24時間を走り切りクラス10位で完走を果たし、3ポイントを加算した。

今回のドライバーは今季初めて熊本県在住の塚田利郎がAドライバーとして参戦し、エースの富田自然(あるが)、大分県出身の森田真心(こころ)、福岡県在住の永原蒼翔(あおと)、21年以来5年ぶり合流の霜野誠友、ポルシェ・カレラカップ・アジアやランボルギーニ・スーパートロフェオ・アジアでタイトル獲得経験のある31歳の台湾人ドライバー-EVAN CHENの6名で臨んだ。

国内レースで最も長く過酷な富士24時間レースに出走した車両は、全11クラス計62台と過去最多。ST-Zクラスは、国内外のGT4マシン5車種計11台がエントリーした。公式予選は5日、薄曇りの午後に行われ、Aドライバー塚田とBドライバー富田の合算タイムでクラス10位総合19位となった(グリッドは18番目、クラス9番手からのスタートとなった)。

決勝レースは6日の14時59分、薄曇りの中、塚田がステアリングを握りスタートした。ライバル勢がエースドライバーをスタートに起用する中、塚田は今季初めてのスープラGT4のドライブで思うようにペースを上げられずクラス10位でステイディア走行に徹した。70分のステントを終えた塚田からS耐デビューとなるCHEN、富田とつなぎ、日没を過ぎて霜野へ。花火が打ち上がりレースが6時間を経過した21時には、クラス8位へ順位を上げた。ナイトランは霜野から森田へ2ステントずつ走り日付が変わると、10分間のメンテナンスタイムを使って消耗したパーツを交換後、塚田が1ステントを担当。さらに夜中に永原へ交代した。

永原が2ステント目に入りレース半分が過ぎた3時で順位はクラス9位。そこまで大きなアクシデントはなく、短いFCY(フルコースイエロー)が6回あっただけで平和なレースが続いていた。しかし夜明けも近くなった4時15分過ぎ、永原がヘアピン立ち上がりで単独スピン。ボディ右側をガードレールにヒットさせストップしたが、何とかピットへ戻って来た。ピットではメカニックが車両の修復を開始。50分をかけてすっかり明るくなった5時過ぎに車両は蘇った。そこからは霜野、森田が1ステントを走り、3時間36分の義務周回時間をクリアするために塚田がコースへ。9時あたりからは霧雨からコースをうすうすと濡らし始めたが、永原が志願してコースへ。さらにCHENが2ステント走り、最後は富田へ交代。最終盤は弱い雨となったが、富田はチェッカーまで無事に車両を走らせ、15時過ぎにクラス10位総合21位で完走を果たし、3ポイントを加算した。

チームとして期待した結果には及ばなかったが、クラッシュからのメカニックやスタッフらの懸命な作業、そして後半難しい路面でのドライバーたちの頑張りを、これからのシリーズ後半戦へ向けてのプラス要素とし結果につなげていく。

次の第4戦SUGOはスキップし、7月25～26日、チームの地元オートポリス戦(5時間)では、表彰台を狙う。

塚田利郎「去年のこの大会以来のスープラでしたし、台風の影響で練習走行を走れなかったのも痛かったのですが、最後のステントでようやくクルマの走らせ方を思い出せました。アクシデント後もメカさんたちがしっかりクルマを直してくれたので安心して走れました」

富田自然「若いドライバーが多く乗って経験を積んだことが良かったと思います。車両に関しては霜野さん、EVANから話を聞いていろいろトライしたので、これを今後に生かしたいと思います。オートポリスは2年前も表彰台に乗っていますし優勝を目指して頑張ります」

森田真心「長い走行時間のチャンスをもらえたので、いい経験になりました。実は1回バックマーカーと接触してスピンして動揺したのですが、それが反省点。次はチームの地元であるオートポリスなので、今回の経験を生かして表彰台を目指していきたいです」

永原蒼翔「クルマに乗って来て調子が出た頃に、速い車両に譲った際に自分のミスでタイヤかすに乗ってスピンしてしまいました。初めて24時間レースに出てチーム一丸となって戦うことが分かりましたが、チームに迷惑を掛けてしまいました。この経験を今後に生かします」

霜野誠友「クルマのセットアップ、みんなを引っ張っていくという面では、自分がこれまで培ってきたものでチームに貢献できたのかなとは思っています。結果は残念でしたが特に若いドライバーにとっては得られるものも多かったと思いますし、今後につながっていくと思います」

EVAN CHEN「富士24時間は初めてでしたが、レースはとても良い雰囲気です。タイプも速さも異なるいろんな車両がたくさん走ってバトルできました。セットアップやタイヤは良かったですし、このような環境でバトルをすることは良い経験になりました。また来年来たいです」